

嫌われる話し方とは

相手の言葉に対して、すぐに「わかっているよ」「知っているよ」と答えてしまう

相手が貴方に対してなにかを言ったとき、即座に「わかっている」と答えるのはよくありません。

「わかっています、はい」と丁寧な風に答えても効果がありません。

この場合は言い方が大事なのではなく、対応の仕方が間違っていることになります。

相手からしてみれば伝わるのは「知っている」という言葉の意味ではなく、

「わかったから話しかけるな」

と伝わる可能性があります。

これは冗談ではなく、受け取り側がどう判断するかがすべてです。

もっと極端に受け取るかもしれません。

「もう、それ以上俺に話しかけるな！どこか行ってくれ！」

本気でそう感じる可能性もあります。

人は些細な言い方の違いだけでも憤慨する人がいます。たとえば、

「身分」という言葉に強く反応して怒り出す人を見かけたことがあります。

とあるお店で見かけた出来事です。会員カード作成を店員にお願いしている中年男性がおられたのですが、周囲の目を気にせず、突然怒り出していました。

そのいざこざを聞いていると、どうも「身分証明書をお願いします」という言葉に反応したようです。

「身分だと？お前ら何様だ！」…と。

どうも信じられないのですが、店員が言った「身分」という言葉が余程気に入らなかったようです。

おそらく身分という言葉にそのご本人は上下関係的な、なにかを感じていたのではないのでしょうか？

この身分という言葉に関して、私は言われても特になんとも感じないのでわからないのですが、人それぞれに不快に感じるポイントがあるのです。

どうでしょうか？貴方にも首をかしげるような経験はないでしょうか。

「なんでそんなことで怒るんだ？」

思い返してみてもなぜ相手は機嫌が悪くなったのか、理由がわからないままで終わってしまったコミュニケーションはないでしょうか。

顔見知りだとそれほど激しく怒りをぶつけてくる人はいないかもしれませんが、まったくの他人だと平気で怒りをぶつけてくる方は大勢います。

たった一言で、思いもよらない相手の反感を買う結果になります。

すぐに「わかっているよ」と答えるのも同じです。

相手はもしかしたらこんな風に受け取るかもしれません。

「わかっているよ。私はあなたより優れているのだから」と。

言葉は万能ではないのです。言葉に込めたこちらのメッセージと、相手の解釈の仕方は必ずしも一致するとは限りません。

同じ言語を使う人間同士であっても、その言語に対する認識が皆違うのです。

「だったら気をつけようがない」

と思われたかもしれません。その通りです。相手が憤る言葉なんてわかるわけがないからです。

ですが、意識すると意識しないでは、必ず結果が変わってきます。

本当に「気をつける」ぐらいで大丈夫です。それだけで効果が違います。

ただ無神経なだけの人には、言葉を選ばずに話したいように話します。

当然危険も大きいです。

それよりも意識して話すだけで不用意な発言を減らすことができます。一度や二度の不注意で心の底から嫌ってくる人はそんなにいません。

ですが何度も続けば恨みは積もります。そして爆発します。

ですので、気をつけることで相手をイラつかせる回数が減らせることに、意味はあります。

相手の言葉に対して即座に、

嫌われる話し方とは

「わかっている」

「知っている」

と答えるのはよくありません。まずは相手の話をじっくり聞くことが大切です。思っていた話とは違うこともあります。

「つまり～」 「要するに～」 と相手の話を要約しない

人間だれでも自分のことを特別だと感じている、あるいは感じたい、と思っています。

それは自分の話を「つまり……ということなんだよね」と一般化してほしくないのです。

自分の話は特別。まとめられて要約されることは嫌なのです。

「僕の話を一一般論にはしてほしくない」

「要するに…」と片付けられたくない、ちゃんと聞いてくれ、そういう心理があります。

また、別の意味もあります。

「なんで僕の話のを要約するんだ？それは僕の話が下手だってことか？」

と受け取ります。それでは当然嫌われる原因にもなってしまいます。

話をまとめたがる人の心理は、もしかしたらその通りである可能性もあります。

話をコンパクトにまとめることで、自分の知能の高さをアピールしたがつているのかもしれませんが。

言葉の意味は、普段の振る舞いを見ていることである程度想像することができます。

一言一言の意味を探るより、人格から言葉の意味を推察する方が正しい結果になるはずで。

しかし、多くの方は「考える」より、「感じる」、です。やはりどう受け取られるかわからない危険な言い方は避けたほうが良いです。

「要するに…」という言い方は間違いなく相手の中で「ん？なんでいま要するに、って言ったんだ？」と引っかかっているはずで

す。

そのまま流してもらえれば問題なく済むのですが、突っかかってくる人もいます。

そしてトラブル事に発展します。

もしも貴方が話を要約されても、気にしないであげてください。

相手は特に意味がなく話をまとめただけか、自分の虚栄心を満たしたいだけです。

自分からケンカをふっかける必要はありません。

貴方から相手の話を要約してしまうことだけに注意してください。

相手が「これが良かったよ」と勧めているのに対し、「あれも良かった」と勝手に別の話を進める

たとえば相手が貴方におすすめだとして食事をおごってくれたのに、「あの店の料理もう良かったよ」と別の店の話をするはいけません。

相手はびっくりするでしょう…。

これは失礼、無神経と思われても、仕方がありません。弁解の余地すらありません。

人間は「調和」を好みます。

「みんなと一緒にいい」という本能があるのです。これは個としてではなく、人間という種としての生き方です。

ですが、「あの店も…」というのは「違い」を相手に感じさせます。

「調和」とは真逆の「違い」です。

違いを表現されると違和感を覚えます。そしてその違和感は孤立につながります。

相手に対して違いをアピールすることは、相手の気持ちが離れていきます。

他者と気持ちが離れていくのは望まないことだと思います。

ですが普段の会話でこの「違い」を使う人はたくさんいます。

「映画、面白かったね」

と言ったのに、

嫌われる話し方とは

「もっと面白い映画あるよ」

となぜか同意をしたがらない人がいます。

この場合も「自分本位」の考え方が働いています。「私はもっと面白くて良い映画を知っている」とアピールしたいのです。

それが人と人の中にある絆にヒビを入れます。

相手の話にはまず同意してあげることが必要です。「それよりも」という枕言葉が相手に寂しい思いをさせてしまいます。

同意は共感を呼び込みます。自分の思いに共感してくれる人には好意的な印象を抱くものです。

「あれがよかった」

と言っている相手に、

「これもよかった」

と返しては、相手のことには興味が無いと言っているのと同じです。

「違い」を示すのではなく、「同意」を相手に見せてあげてください。

相手の話を無視して、別の話を進めるのはいけません。いつも相手の話だけをすぐに切り上げて自分の話にすり替えては、相手も同じように貴方の話を聞いてくれなくなります。

「自分もなにか話さなくては」

と気持ちが焦ってしまうと、相手の話題が終わらないうちに自分の話に変えてしまいがちです。

「ああ・・・」「うん・・・」と相手の話に対してつまらなそうに言う

お伝えするまでもないことですが、つまらなそうな態度だと思われたら相手は不愉快になります。

「今、疲れているから・・・」

ということが伝わっているなら相手も許してくれるかもしれませんが、それでも、何度も続けば相手も貴方に対して話しかけることが億劫になります。

ですがこの態度が日常ならば、いずれだれも話しかけてはくれなくなりません。

自分の話をいい加減に聞く人を、話し相手にしたいとは思いません。

相手の話につき合っているヒマがないのであればその理由をちゃんと行ってから断るべきですし、たとえ相手の話が興味をそそるものでないとしても最後まで耳を傾けてあげるべきです。

「ああ・・・」とだけで対応するぐらいなら、せめて「へー」「それで？」と多少適当でも、相づちを入れるだけではるかに良い対応法になります。

話しかけて「うん・・・」としか言われない相手がどんな風を感じてしまうか想像してあげてください。

寂しい、と思うかもしれませんし、腹立たしい、と感じているのかもしれない。

人間関係が進展しなくなるのは言わずもがな、です。

相手が楽しそうに話しているのに「そんなのみんな知ってるよ」と言う

盛り上がっている相手の気持ちを、一気に盛り下げる効果があります。

「みんな知ってる」という言葉の裏には「貴方の話には価値が無い」という意味が込められています。

わざわざこんなことを言うのは「それがどうした？そんなのは当然だ」と相手よりも自分の方が優れているということをアピールしがっている人に多い傾向があります。

相手の話よりも、どうしても自分の存在を見せたがるとういっ
た発言につながってしまいます。

楽しそうに話している相手を傷つけたいのであればこんなことを言うのは効果的ですが、嫌われるであろうことは覚悟しなくては
いけません。

相手の話の水を差すよりも、一緒になってわいわいしている方が
良いです。

会話の流れを止めてしまうより、流れに自分から乗ることが大事
です。そうすることで相手と一体感を共有できます。

「嫌われる話し方」の反対方向に「好かれる話し方」があります。

相手の話に対して「いや、それはこういうことだ」と正そうとする。

人は自分の話を聞いて、他人に同意をしてほしがっています。

それなのに、ちょっとした間違いを見つけては度々修正を口にしてくる人と会話をしていても「楽しい」とは感じません。

それが正論であろうとも、間違いを指摘することで相手は「辱められた」と思うだけです。

人との記憶は曖昧なもので普通に会話していれば間違いというものはいくらでも出てきます。

テレビに出ていた芸能人などの話になれば、名前をちょっと間違えているのに普通に会話している人もいます。特に気にした様子もなく、です。

それは別に重要なことではありません。心の中で「あー、間違えているよ」と思っているだけでいいのです。

わざわざ「名前違ってる」と口に出して相手に教える必要はありません。

どうしても人の間違いを正たがる人はいます。それは感謝されるだろう、と思っただけのことです。

ですが実際は、相手からしてみれば余計なお世話であることが多いです。修正する必要がある知識であればちゃんと教えてあげることも必要ですが、ただの雑談では相手の気に障ることになるだけです。

貴方ならどうでしょうか？ちょっとした言い間違いに「間違っているよ。正確には・・・」と揚げ足をとる人に好感を持つでしょうか？

ちょっと「ムッ」としませんか？

「言い間違えただけだ。ちゃんと知っているよ」

と反論したくなるはずです。

間違いを指摘されても言い返したくなるだけです。相手も同じ心境です。

相手の話に「それはこういうこと？」と疑問を投げかける必要はありません。話し手が不快感を感じるだけです。

仕事などでの話なら楽しさを求めての会話ではないのでちゃんと相手の間違いを正して正確な知識の共有もやるべきことではありますが、雑談ではやるべきことではありません。

相手が目上の立場の人なら変な話をしてても「早く話が終わらないかな」と思いながら聞き流すこともありますよね？

わざわざ突っ込みを入れることはないと思います。恥をかかせるわけにはいかない、と黙って聞いているだけのはずです。

程度はありますが、楽しく会話を盛り上げたいのなら、相手の間違いを正して教えるということはやるべきではありません。

受け流すことで良い方向に進むこともあります。

「だって」と言う

これは自分を守ろうとするときに出る言葉です。

他者からなにかを言われてすぐにこの言葉を言ってしまう人は多いのでは？「だって・・・」「それは・・・」と枕言葉を言ってから弁解の論が始まります。

だれだって自分の身はかわいいものです。仕方がありません。

ただ、

「だって」と聞かされた側は不愉快に感じてしまいます。

この言葉の後に続く言葉はまさに自己愛に満ちた発言ばかりです。内容はどうであれ、そこに込められたすべての言葉の意味は「私のことは責めないで！」と叫んでいるだけです。

残念なことに、聞いている側からには醜悪にしか感じ取れないのです。言い訳は重ねれば重ねるだけ、相手の不興を買うことになります。

自分の身を守るはずが、どんどん身の安全を侵しているのです。

人間の本音というものは聞いている人の心を動かします。ただし、必ずしも良い方向に、とは限りません。

弁解の言葉というのは基本的に「汚らわしい」ものです。その人の本性が出ている、とも見られてしまいます。

汚れた一面を見せられていい気持ちになる人はいません。

だれだって綺麗なものの方に好感を持ちます。

もちろん本音を出すことがいけないわけではありません。ただ、

自分の身を守ろうとして出る言葉にはだれも共感をしてはくれません。

その姿を「醜い…」と感じるだけです。

また、だれもが「だって…」と聞いた瞬間に「言い訳か」と判断します。「だって」という言葉自体が相手への印象を悪くしてしまいます。

そして「責めないで」という思いが込められた言い訳には、「私は被害者です。貴方は加害者です」という気持ちが言葉として出ることがあります。

言い訳を聞かされている側からしてみれば嫌な気分になってしまいます。

つい口から出てしまう弁解の言葉は、非論理的な話になりがちで余計に相手の逆鱗に触れてしまいます。

責められてしまい、自分の身を守りたくなくても、感情の赴くままに言葉にすると逆効果になります。

感情を交えた話し方は良くも悪くも強力な効果があります。この場合は悪い方向に…。

相手もただ責めるだけでなく、ちゃんと「なぜこんなことになった？」と事情を確認してくるはずですが。

そのときに、ありのままの出来事を説明することがお互いの不利益にならずに問題解決への糸口になります。

「だって」という言葉は相手に向けた言葉であり、しかも不快感を与えてしまい、自分の首を絞める結果になる言葉です。

「どうせ」というネガティブな言葉

「どうせ僕はなににだって上手くいかない…」的な言葉は聞く人にとって気持ちの良いものではありません。一緒に暗い気分へと誘い込まれてしまいます。

傍にいてほしい人とはなりません。一緒にいると嫌な気分になるから、です。

それ以上の意味はありません。

ついつい言ってしまう言葉かもしれませんが、それで同情してくれる人もいないでしょう。

たとえ同情してもらっても、手を差し伸べてくれる人はいません。

暗い人とはできれば関わりたくないと思うものです。そもそも、どうやって助けてあげればいいのかもわからないのですから…。

「どうせ…」を聞かされてしまった人には。

弱音とはちょっと違ったニュアンスがあります。たまに見せる弱音は相手の気を引くためにも良い方法のひとつだと思いますが、「どうせ」という言葉には周囲に対して否定的な印象もあります。

周りからは自分の殻に閉じ籠っているだけ、にしか見えないのです。

それでは周囲の人たちは離れていくだけで、近寄ってくれる人はいません。

相手の話が終わらないうちに「そう」と言う

「これ以上は貴方の話につき合えない」と受け取られてしまいます。

自分から相手の話を中断させたり、終わらせるのは当然よくありません。「こいつとは話をしたくない」と思われるだけの理由になってしまいます。

だから最後まで相手の話は聞いてあげなくてははいけません。

話を中断させられると、

「私のことなんて軽く見ているに違いない」

と思われてしまい、次がなく、関係が疎遠になる原因になります。人は基本的に自分の話を重視しています。

「すいませんが私の話を聞いてください……」

と思うより、

「私の話が聞けて良かったね」

と思っている、思いたい、その心理の方が大きいです。

話を終わらせてしまうことは、否定と同じような意味があります。

人格まで否定された気になり、反感を持たれるだけです。他者の話は口を挟まず、最後まで、じっくり耳を傾ける。

次の話題に移るにしても、相手に賛同するにしても、相手を非難するにしても、なんにしても、相手が話し終わるまで待ってください。

そうしないと、テレビでやっている政治家同士の話みたいに、なに言っているのかわからない会話になります。

そして司会者に強制終了させられます。

「あ、そう」「ふーん」と相手が話を言い切らないうちに言ってはいけません。

「そのうち」「ええ」と曖昧な返事だけで終わらせ、なにも答えようとしなさい。

便利な言葉です。相手の問いに対して「ええ」「まあ」と言うのは適当な気もするし、よく言ってしまうかもしれません。

ですが、まいどまいど曖昧な返事ばかりで答えていると「いい加減な人」という烙印を押されてしまいます。

適当に逃げてけっきょくなにも答えない。

それでは信頼されません。使いやすいから、という理由でなんでも「そのうち」と言っているといずれ孤立してしまいます。

相手を傷つけずに、と思って口にするのかもしれませんが、それほど効果もなく、相手をちゃんと傷つけてしまいます。

どうしても「貴方と距離を取りたい」というメッセージにしかありません。

口癖であるのなら、改めなくてははいけません。

相手の誘いに乗る勇気が無く、「そのうち」と言ってしまうのなら、たまには誘いに答える勇気も必要です。声をかけてもらえるうちが華です。

後から後悔しても手遅れになってしまいます。

なんにでも「まあ・・・」と答えていては信頼されず、声をかけられなくなっていきます。

「そうかな・・・」と疑い、賛成も否定もしない

同意はしない、でも反対もしない、曖昧なままで終わらせたい、
というのは都合が良いと考えるのは間違いで、都合は悪くなっ
ています。

曖昧にすると、相手も曖昧な気持ちになって気分が悪いです。は
っきりと賛成か、否定をする必要もありませんが、ちゃんと自分
の考え、意見を伝えることが大事です。

結論を出すのはしっかりと話し合ってから、です。

それをしないで「そうかな・・・」「うーん・・・」とだけ言っても、
相手もイラついてしまいます。

相手の話に納得できない理由があるのなら、疑うだけで終わりでは
なく、その先に踏み込んでいかないと結果的に印象が悪くなる
だけです。

相手も自分の意見や考えを話し切ったあとに「うーん・・・」で終わ
られると次に進めることができません。

「だったら・・・」と気分を害した状態で話を促されることになり、
そしてなにも答えないと余計に相手の気を逆なでするだけです。

下手に「そうかな」とだけ伝えてその先を用意していないのであ
れば、なにも言わない方が良いこともあります。

黙っていても、相手は満足できずに不満感を示すかもしれません
が、「そうなのかな・・・」と相手の不信感を高める言葉を口にする
よりはよいです。

不注意な一言がきっかけで猜疑心を持たれないように気をつけて
ください。

そっけない「別に」

非常に言いやすく、そして強力な効果がある拒否のメッセージです。…だれにもかまってもらいたくないときには便利です。

この言葉を言われて、なお踏み込んできてくれる人は希です。余程心配してくれているか、心配しているというよりは面白がって首を突っ込んでくるだけの人です。

家族などの親しい相手に使いがちです。つい口にしてしまう人もそのことに気がついていないはず。それ以外の他者にはなかなか言わない言葉です。

意識せずとも相手によって使い分けているはず。

言葉にするのは甘えてる、とも言えます。

仲が良かった状態から怠慢期になってしまった男女関係間でも使いがちです。関係が冷めてしまった人間関係でよく聞く言葉でもあります。

「貴方に話すことはなにもない」という意味を持っていて、聞かされた相手も当然それを感じ取ります。

大概この言葉を使ってしまうと相手と距離を作ってしまう。

そして孤立していきます…。簡単な言葉ゆえに、気分が落ち込んでいるときに自然と口から出るかもしれません。

ですが、相手との関係が疎遠になるきっかけにもなりかねない言葉なので、間違っても言ってしまうまい、「別に…」という言葉は頭の中から消してしまってください。

「君はそう思うんだね・・・」と言う

「そうか・・・君はそう思うんだね・・・」

この言葉の後に続く言葉は、たとえ口にしなくても容易に想像できます。

「・・・私はそうは思わないけどね」

です。

もちろん否定の言葉をはっきりと言わず、口を濁して言っているだけで、相手にはちゃんと伝わっています。

言われた側は、相手から突き放された感じがしてしまいます。

否定、拒否をするなら、その代替案を出すのが正しいことだと思いますが、口を濁した否定の言葉からはその後に続く言葉を言いくいものです。

・・・なにも意見がなく、ただ気に入らないから、という理由で口にしてしている言葉であることがほとんどかもしれません。

はっきりとは相手の間違い、あるいは自分の意見を言わず、「君はそう思っているんだ・・・」とだけ告げて相手からの反撃を避けようと打算しての言葉です。

曖昧な言い方は、言われた側からしてみれば「はっきり言え！」と思うだけです。思っていることをちゃんとと言ってくれない相手に不信感を感じてしまいます。

「そう思っているんだ・・・」と口にしたときは、必ずその後にも言葉が続けてください。誤ってこの言葉を使ってしまったなら、誤解をされないようにしなくてははいけません。

落ち込んでいる相手に「たいしたことない」「よくあることだ」と慰める

「そんなのたいしたことはないよ。元気だして」

と慰めてもらおうと「そうだよね」と前向きな気持ちになれるかもしれませんが、悩みが深刻であれば効果もなく、逆に落ち込んでしまうかもしれません。

「君の悩みなんて、たいしたことじゃないんだから」

と言っているのと同じ意味だからです。

人間だれでも自分という存在は特別に感じています。

その自分の悩みを「よくあることだ」と慰められても、「私のことをわかってない……」と言いたくなるだけです。

「わかってくれない」という思いから、反発心を抱かれるかもしれません。そうなると思われる原因にもなってしまいます。

悩みには共感してくれる人のことを好きになるものです。ですが「たいしたことはない」という言葉には、理解しようとする意思も感じられません。

深読みすると「そんなことで悩んでいるおまえは、たいした人間ではない」とも受け取られてしまうかもしれません。

真剣に相手の悩みを考えた上での言葉ではありません。「よくあることだよ」とサラッと流しているような発言です。

適当すぎる慰めの言葉をかけるぐらいならば、なにも言わない方が相手のためです。

相手が悩んでいるのに「自分にも同じことがあった。自分の場合は・・・」と自分の話に持っていく。

相手が悩んでいるときに

「僕も同じような経験がある」

というのは相手と同じ気持ちを共有する、同じ苦勞をした人間は目の前にもいるよ、ということを伝えるためには有効な方法です。

ですが、

その後に「僕のときはあれこれあって～それから～ほかには・・・」と自分の話ばかり聞かされたらどう感じますか？

気は紛れるかもしれませんが・・・だんだんうっとうしく感じるはずです。

「悩んでいるのは私なのに、なんであんたの話なんか長々と聞かされなくてはいけないんだ！」

と。

それは貴方の自慢話ですか？と言いたくなります。

相手が悩んでいるのに慰める手段に、相手とは関係に話を延々と続けていてもなんの効果もなく、逆効果になるだけです。

「僕はいいけど、みんながどう思うかな？」と反論を述べる

「君の言っていることは、僕はいいいんじゃないかとは思いますが…他の人たちがなんて言うのかわからないよ？」

どっちなの？私の意見に賛成なのか、それとも反対なのか？はっきりしてくれ！

と言いたくなります。ただのイヤミです。自分の身を守っているつもりかもしれませんが、まったく効果がありません。

反対なら反対で、素直に告げたほうがまだ良いです。

「みんな」を巻き込んではいけません。

どっちつかずの意見はだれにも好かれることはありません。ただの八方美人です。あまりにも無難に生きようとする、だれにもかまってもらえない人生が待っています。

だれの見方をするのか、曖昧なままでは多くの人に不信感を持たれる結果になってしまいます。

だれにも肩入れしない、ということは同時にだれも助けてくれない、という孤立した状態へとなってしまいます。